

# 「やおい」が写す女性からみる物語の受容の変化—雑誌『Be・BOY GOLD』の女性キャラクター表象をもとに 加藤夏衣

## 1. 研究背景と目的

「やおい」研究では、読者について「社会が求めるジェンダー観に適応できなかった女性」だと言われていた。また、作品内容が現実存在するゲイへの差別だと捉えられるなど、多くの議論があった。ある時期からそういった読者を異質とみなす風潮から、「やおい」は読者にとって何であるかに焦点が置かれるようになった。そこで本研究では、女性キャラクターに着目し「やおい」に存在する彼女らに何を求めているのか明らかにすることで、新たな関わり方がみえるかと考える。『BE・BOY GOLD』の画とセリフから「ボーイズラブ期」の女性キャラクターの役割と26年間の変遷を明らかにすることを目的とした。当分野では、男性同性愛物語における男性キャラクターの表象や、読者(女性)に焦点を当てた研究や書籍が多い。これまで語られてこなかった女性キャラクターは、男性同性愛がテーマの物語でどのような表象をもつのか探る。

## 2. 研究方法

隔月雑誌『BE・BOY GOLD』の創刊(1995年春)から現在(2021年12月)までの計164冊の掲載作品を調査対象とし、画とセリフから女性キャラクターを抽出し、分類、統計を取った。調査は2021年7月中旬から9月中旬にかけて国立国会図書館にて実施した。分類は助言、恋愛、性行為、同性愛、オカマキャラ、その他一家族、モブの7つである。2015年と2021年に発行された「女子BL」の表紙や副題、作品内容の分析と、表現者側の意図を知るため雑誌に連載を掲載している4人の漫画家のインタビューに触れる。

## 3. 研究結果

雑誌『BE・BOY GOLD』に登場する女性キャラクター数は、計1331人だった。役割は、最多がモブ、二番目が恋愛、三番目が助言、四番目がオカマキャラ、5番目が性行為、六番目が同性愛だった。助言は「恋愛に関すること」が上回っているが、後に減少、「恋愛に関すること以外」がみられるようになる。恋愛は「攻」が「受」を常に上回っていることがわかった。性行為は前半「攻」が上回り、後半は「受」が上回った。同性愛は1998、99年に2回しか描かれなかった。オカマキャラは数値の上下を繰り返しながら登場していた。その他一家族は「受」が「攻」を常に上回り、恋愛と真逆の結果であった。モブは右肩上がりに数を増やしていることが分かった。

## 4. 考察と結論

ボーイズラブ期にみる女性キャラクターは全体的に増加していること、役割は多種多様に描かれていることが分か

った。特に①ボーイズラブの世界観をより現実に近づけるため、②男性キャラクターをより魅力的に見せるため、③やおいがやおいたるため(女性キャラクターが男性キャラクターに恋をしても必ず実らない)存在するという3つの役割を発見できた。背景には2000年代に「腐女子」が社会進出したことで、アンダーグラウンドに存在していた趣向が多くの人に共有され、創作活動が活発になり一大ジャンルと化したことや「進化系BL」登場による物語の多様化の影響が考えられる。

また、本研究から女性キャラクターがどの年にも出現する点や、「このBLがやばい!」の印象に残った女性キャラクターを継続的にランキングにしている点、「女子BL」で描かれたような、男性同性愛物語の中でも、自分の立ち位置を発見し、生きる姿が描かれるようになった点から、ボーイズラブという「男性性」が主体となる物語の中でも、表現者と読者は、「女性」が「女性」として存在することを肯定的に捉えようとする様子がみられたと考える。

「やおい」は、女性性の否定から始まったと考えられていたが、ボーイズラブ期における女性キャラクターの役割は、その様々な表象に、時に家族、時に元交際相手、時に気の置けない友人に自己の反映、もしくは、戦友のような形で、男性同性愛物語の当事者として関わることができるという、心地よさを与えているのだと考える。また、家庭の存続の可能性を残すため、登場していることもあり、女性キャラクターが担う役割には制作者側の意図が強く反映されている場合もあると考える。

「やおい」を「創成期」「JUNE期」「ボーイズラブ期」に分けた内、前半二つは、女性キャラクターが登場することは少ない。中島梓によると決して恋愛関係に関与することは無く、登場しても傍観者や主人公のライバルという役割であったという。今回は資料が十分でないことから具体的な表象や役割を分析することは叶わなかった。一方で「ボーイズラブ期」のみに着目しても登場数の増加と、様々な表象と役割について発見することができた。「やおい」の作品が変化してきた中で、女性キャラクターの活躍が一端を担っていたと結論付ける。

## 参考文献

1. 竹内オサム、西原麻里『マンガ文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2016
2. 堀あきこ、守如子『BLの教科書』有斐閣、2020
3. 溝口彰子『BL進化論 ボーイズラブが社会を動かす』太田出版、2015